

第2回青森操車場跡地利用計画審議会 会議概要

1 開催日時 平成24年10月22日(月) 13:28~15:29

2 開催場所 ラ・プラス青い森 4階 ル・シエル

3 出席者 【委員】
猪原龍介、小川貢、木村精郎、工藤美智磨、後藤厚子、櫻田清光、
菅勝彦、須藤喜代行、種市勲、野澤正樹、福士譲、三浦康久、
森内忠良 以上13名〔欠席1名：佐藤江里子〕
【事務局】
都市整備部長(江崎賢一)、都市整備部次長(木村敏幸)、
都市整備部次長(小野泰裕)、
住宅まちづくり課長(佐々木雅信)、主幹(佐々木幸人)、
主査(棟方康晴)、主事(長内真由美)、主事(滝口貴史)

4 第2回会議

(1) 「青森操車場跡地利用計画素案」に対する市民意見について

〔配布資料：資料1「青森操車場跡地利用計画素案」に対する市民意見について〕

資料1に基づき、事務局より説明。

事務局	<p>1 ページ(「青森操車場跡地利用計画素案」に対する市民意見聴取の概要)</p> <p>市民意見募集については、去る5月1日から6月15日まで一ヵ月半ほどホームページ、広報あおもりに掲載し、広く市民の皆様からご意見を募集したものであり、22名の方から意見の提出があった。</p> <p>あおもり市民100人委員広聴会については、5月20日と23日の2回に分けて開催したものであり、合計61名の方の出席があり、ご意見をいただいた。</p> <p>市民と職員の対話サロンについては、6月27日に青森公立大学において実施したものであり、公立大学の学生21名の方の出席があり、ご意見をいただいた。</p> <p>2 ページ(「青森操車場跡地利用計画素案」に対する市民意見(総括表))</p> <p>この3つの市民意見をまとめたものが、2ページの一覧表</p>
-----	---

である。

3つの土地利用の方向性を市の方からお示しているが、3つのうちの1番目、防災機能を備えた公園として利用することについては、(1)防災機能に関する意見、(2)公園機能に関する意見、(3)駐車場機能に関する意見に分類し、計59件の意見をいただいたものである。

内訳としては、素案に対する意見募集が9件、100人委員広聴会が45件、対話サロンが5件となっている。

同じく2点目の新駅設置を含む交通結節点としての利用することについては、計53件の意見があり、(1)新駅、(2)アクセス道路、(3)公共交通に関するものに整理している。

3点目の公共利用の観点から公共的な施設の建設用地として利用することについても、(1)文化施設、(2)スポーツ施設、あるいは(3)庁舎、(4)病院、(5)市営住宅、(6)その他施設ということで、計34件の意見があった。

また、その他の意見については47件あり、意見総数としては、再掲として改めて掲載しているものも含めて193件ということで整理をしたところである。

個別の意見については、3ページから31ページまでそのまま掲載させていただいており、重複している方については、意見の右端に、例えば、17ページのその他施設に関する意見というところでは、その表の下の部分に「1(1)防災機能 13再掲」という形で掲載している。この再掲というものが、全部で6件ということになっている。

個別の意見については、時間の関係もあるので、紹介については省略させていただく。

市民意識調査については、7月6日から27日まで、16歳以上の市民の方を住民基本台帳から無作為に抽出し、3,000人を対象に調査を実施したものである。

回答については、1,486人の方、およそ半分の方からいただいております。内容については32ページと33ページのところに、この市民意識調査の速報値 ということで掲載している。
(正式な意識調査結果報告書は年内を目処に公表予定)

32、33 ページ (平成 24 年度第 2 回青森市民意識調査結果の概要)

市民意識調査結果の概要としては、問1として、「あなたは現在、自由運動広場及び多目的芝生広場として利用されている青い森セントラルパークについてどのように感じていますか。」という設問に対し、5つの選択肢の中から回答してもら

	<p>うこととしており、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」と回答した方を合わせると、34%であった。</p> <p>設問の2番としては、土地利用の方向性を「防災機能を備えた公園として利用」、「新駅設置を含む交通結節点として利用」、「公共利用の観点から公共的な施設の建設用地として利用」として整理したことに対する考え方について、各々伺ったものである。</p> <p>結果としては、「防災機能を備えた公園として利用することについて」は、「賛成できる」、「どちらかというとな賛成できる」と回答した方を合わせると74.5%であった。</p> <p>「新駅設置を含む交通結節点として利用することについて」は、53.9%の方が「賛成できる」、「どちらかというとな賛成できる」という回答であった。</p> <p>「公共利用の観点から公共的な施設の建設用地として利用することについて」は、「賛成できる」、「どちらかというとな賛成できる」という方を合わせると、48.8%という回答であった。</p> <p>説明は以上である。</p>
--	---

質疑等

特になし。

(2) 調査・審議に向けた参考資料について

〔配布資料：資料2「事前調査票の回答内容」〕

〔配布資料：資料3「資料2に関連する参考資料一覧」〕

資料2・3に基づき、菅議長より説明。

資料2「事前調査票の回答内容」

菅議長	<p>(前回の会議終了後に)委員から事務局に対し、必要な資料を報告してもらいその内容を取りまとめたものが、資料2「事前調査票の回答内容」になっている。</p> <p>これをもとに私と猪原副会長とで調整した結果を順次報告することとする。</p> <p>まず、資料の調整にあたっては、本審議会の役割である市長の諮問に対しての答申をするため、第2回開催案内の際に送付した諮問書の写しに記載されているとおり、青森操車場跡地利用計画素案の3つの方向性、「防災機能を備えた公園として利用すること」、「新駅設置を含む交通結節点として利用</p>
-----	---

すること」、「公共利用の観点から公共的な施設の建設用地として利用すること」、これらについて、調査・審議する上で、私たち委員が共通認識を図っておくべき事項であることを第一として調整したものである。

その結果について、審議会として参考資料とするか否かを一つずつ説明する。

1 青森操車場跡地利用構想

第1回会議においても資料提供を求める意見があり、素案に明記した資料でもあるので、素案に関連する青森操車場跡地利用構想を当審議会の参考資料として確認する。

2 青森操車場跡地利用計画素案に対する市民意見募集の実施結果に関する資料

当初の予定どおり、資料1のとおり事務局から説明があったため省略する。

3 地震時等における大規模な火災の可能性があり、重点的に改善すべき密集市街地の地区数・面積の全国的な一覧表

防災公園に関する検討を行う上で、参考資料として事前に資料を配布したが、これは平成15年時点での資料であり、先日の10月12日に国土交通省から平成24年3月1日現在で調査した「地震時等に著しく危険な密集市街地と地区数・面積一覧」が新たに公表となったことから、追加資料としたところである。(この資料については)補足資料として確認するが、その中で青森市、青森県内は当該密集市街地にはならなかったとのことである。

4 避難所について、国が定める基準・青森市が定める基準

避難所について国が定める基準、青森市が定める基準は、防災公園に関する検討する上での参考情報として当審議会の参考資料として確認する。

5 青森市の人口分布。公園緑地の分布図

防災公園に関する検討する上での参考情報として、避難所の機能等を当審議会の参考資料として確認する。

6 都市防災不燃化促進事業の書類

不燃化促進区域における耐火建築物、準耐火建築物の建築への助成事業であるとのことである。青森市では不燃化促進区域を指定していないということであるが、土地利用について検討する上での参考情報として、当審議会の参考資料として確認する。

7 防災公園技術ハンドブック。避難所の基準と必要施設

利用計画を策定し、その後に詳細設計等を行うのであれば必要かもしれないが、当審議会において調査・審議を行う上で、委員が共通認識を図っておくべき事項ではないと考え、資料から外すこととした。

8 「青森市新総合計画 元気都市あおもり 市民ビジョン」(基本構想・前期基本計画)

素案に明記した資料でもあり、素案に関連する部分について、青森市新総合計画を当審議会の参考資料として確認する。

9 これまでの「青森操車場跡地利用計画推進」に関連した事業費の推移

土地利用について検討する上での参考情報として当審議会の参考資料として確認する。

10 「青森市総合交通戦略」

素案に明記した資料として素案に関連する部分について、青森市総合交通戦略を当審議会の参考資料として確認する。

11 どの程度の高さの建物が建てられるのか。商業施設なども含め、どのような建物施設が建てられるのかを知りたい。

公共的施設、駅の規模等を検討する上での参考情報として地域ごとの建築物の用途制限を当審議会の参考資料として確認する。

12 「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業」の際の市民意見

土地利用を検討する上での参考情報として当審議会の参考資料として確認する。

13 青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン構想の各会の議事録の写し

土地利用について検討する上での参考情報として当審議会の参考資料として確認する。

14 同上構想の市議会における各種会議等(常任委員会等)における議事録の写し

土地利用について検討する上での参考情報として、当審議会の参考資料として確認する。

15 同上構想の報道機関、主に新聞の論評記事の写し

新聞等の論評記事など特定の団体の思考の入ったものは、審議会において調査・審議する上で、委員が共通認識を図っておくべき事項ではないと考え、資料からは外すこととした。

以上であるが、あくまでも今後の土地利用の方向性を検討する上での参考資料であり、低炭素型モデルタウン構想を検

	<p>証するためのものでないということを、ご理解をいただきたい。今報告申し上げた内容のとおり、資料要請があり、それについて判断をしたわけであるが、何か異論・質問等はあるか。</p>
森内委員	<p>前回の会議には参加できなかったのだが、この資料の他に改めて資料というのは提示していただけるのか。</p>
菅議長	<p>問題ないと思う。事務局から回答があれば願います。</p>
事務局	<p>前回欠席ということ踏まえ、希望の資料ということであれば、会長、副会長と相談した上で、準備が可能なものについては次回の会議までに事前に送付するなどの対応をしたい。</p>
森内委員	<p>このようにお願いしたのは、この素案の中に公共施設という計画があるからである。</p> <p>この30年間、市及び県の公共施設に関して、老朽化して建て替えが必要な建物についてはかなりの数がある。</p> <p>今までは県なり、市の皆さんのところに都市計画の中にバラバラに郊外に存続しているというのが現状である。</p> <p>これを機会に、30年というのは適切な期間かどうか分からないが、長い目で見ると都市計画としては決して短い期間ではないと思うので、その辺でそういう建物、今このような施設があと10年しかもたないなど、その辺の資料の提供をお願いしたいのだが、よろしいか。</p>
菅議長	<p>そのような申し出であるが、どうか。</p>
事務局	<p>建て替えが必要かどうかということではなく、事実関係だけ、例えば、市の施設については昭和何年に完成というところは提示できると思う。</p> <p>県の施設については、県の方に確認しなければならないので、ここでは何とも申し上げられない。</p>
森内委員	<p>あくまでもお願いだが、やはり都市計画上は市であろうが県であろうが、住んでいる住民にとってはどうでもいいことである。</p> <p>市の立場からすると非常に難しいことかと思うが、やはり都市計画というのは全体として計画して初めて都市計画というものである。</p> <p>県の土地がないのであればまた別だが、隣に接続して県の土地があることから、その辺を県と一緒に都市計画の内容を考えていかないと、青森市だけの都市計画というのはありえないと思う。</p> <p>だから、勉強して皆さんお分かりだと思うが、県立図書館</p>

	<p>が（都市計画道路）3・2・3 道路（外環状線）の向こうにあるという現状を踏まえてコンパクトシティとか、その辺を考える上でいずれは老朽化していく施設、それを見据えて検討していく必要があると考える。</p> <p>やはり財産であるあのエリアを市だからとか県だからとかではなく、今ここは市の会議なのだが、やはり県を巻き込んでいかないと、それなりの県都としての青森市というのが存続しないのではないかとということを考えると、なんとかお願いしたいと思う。</p>
事務局	<p>ただいまのご意見を踏まえ、県の方に確認してみる。</p> <p>対象エリアとしては旧青森市ということでよろしいか。</p>
森内委員	<p>それで構わないのではないかと。まさか青森市の中心の計画に、弘前云々、田子町がどのと言われても仕方がない。</p> <p>エリアとしては浪岡も確かに青森市ではあるが、その辺はやはりコンパクトということを考える。</p> <p>ただ、浪岡地区にあるもの、もしくは田子町にある県の施設が例えば県の用地に来るとするのは、面白いのかなとも思う。</p> <p>ただ市に関しては、旧青森市の範囲で構わないと思うがどうか。</p>
菅議長	<p>建て替えが必要かどうかとなると、やはり判断が入り込むので、恐らく事務局としては判断を含めたものは、なかなか県に要請しにくいということだろう。</p> <p>今発言があったように、この建物は例えばコンクリート造りで何年に造られたのかということが分かれば、そういう形で出してもらえればいいのではないかと。</p> <p>主要な建物について、何年に造られているということのリストアップしてもらい、あとは我々が判断ということだとやりやすいと思う。</p> <p>県の方に、その判断を含めたものを出せというのは恐らく言い難いでしょうから、そういうことでよいかと。</p> <p>では、他に何かあるか。</p>
木村委員	<p>資料の「 3 地震時等における大規模な火災の可能性があり、重点的に改善すべき密集市街地の地区数・面積の全国的な一覧表」について、平成 15 年のものと今年の 3 月 1 日時点のものとを比較すると、15 年の時は青森市で 23ha 不足していて、今回の調査によると青森県全域は問題のある地域がない。</p> <p>そういう判断になるが、これは基準が変わったのか、改善</p>

	<p>されて大丈夫な場所になったのか、その辺を教えていただければと思う。</p>
事務局	<p>ただいまの 3 の資料の密集市街地の件であるが、9 月の時点で要請があった資料については、既に配布している一覧表（ 3 の資料）であり、こちらの資料については、今、木村委員の発言のとおり、平成 15 年の資料である。</p> <p>その後、10 月 12 日に改めて国土交通省の方から発表があり、そちらが本日追加という形で配布している資料である。</p> <p>詳細については、発表があったばかりということで、我々の方にも具体的な通知がないが、大きく違うのは今日配布させていただいた資料については、避難路が確保されているとか、あるいは消火活動ができるといった視点が入っており、それが 9 年前の平成 15 年の資料と比べて大きく条件が異なっているところである。</p>
木村委員	<p>基準が変わったということか。</p>
菅議長	<p>そのようである。その他何か質問等あるか。</p> <p>それでは、事務局から資料 2 に関連する参考資料の一覧ということについて説明をお願いします。</p>

資料 3 「資料 2 に関連する参考資料一覧」に基づき、事務局より説明。

事務局	<p><u>資料 3 1「青森操車場跡地利用構想」</u></p> <p>平成 9 年 11 月 11 日策定ということで、操車場の跡地、当時は約 21.5ha であるが、これを平成 10 年の 3 月に県と市が購入した際に、跡地利用構想ということで取りまとめた資料である。</p> <p><u>1 ページ</u></p> <p>操車場跡地の現況と担うべき役割ということで、冒頭に「市街地中央部に残された約 21.5ha にわたる広大な遊休地であるが、計 6 ヲ所に分散し」とあるが、北の方を 2 ヲ所、西の方も分けて 2 ヲ所、南側、東側を合わせて計 6 ヲ所で表現している。</p> <p>実際は、第 1 回会議終了後に現場の方確認を視察にさせていただいたように、北・西・東・セントラルパーク部分ということでの 4 ヲ所である。</p> <p>また、広域性、市全体、更には隣接する市街地との関係も踏まえて、4 つのポイントで整理をしている。</p> <p>具体には、1 点目が南北道路等のアクセス機能強化により、</p>
-----	--

集客機能の導入等により、市街地の一体感・連続性の創出を図る。

2 点目は、市街地中央に位置する利点を活かして、在来鉄道の有効利用ということで、交通利便性の向上を図る。

3 点目が青森を代表する新しいシンボル・顔を形づくるとともに、多様な交流が展開される拠点の形成を図る。

更に 4 点目としては、当時は東北本線であるが、北側の市街地中心部での都市機能の役割を分担する地区として、更に南側の周辺市街地での生活基盤の不十分な地域での生活環境の向上といったところで、役割をまとめている。

2 ページ

基本的な考え方であるが、青森市が都市として発展してきた 100 年を振り返り、21 世紀の本市を象徴する地区として、都市の個性、アイデンティティを探しながら、魅力あるまちづくりを進めるといったところで整理している。

2-1 として、基本的な視点ということで、

- (1) 都市の個性、シンボルづくり
- (2) 本市全体のまちづくりとの連携
- (3) 時間をかけて育むまちづくり
- (4) 市民の一体感をつくる

といったことで、2-2 にあるように利用のコンセプトとしては、『緑豊かな交流拠点～あおもりセントラルパーク』ということにしている。

3 ページ

土地利用の構想ということで、3-1 導入機能、A であるが、都心ゾーンのオアシスとなるみどりのセントラルパークということで、市街地中心部では「緑花」空間が不足していて、「青森」という名前に比べて緑が乏しいとの印象が強いこと、近年高く認識されている防災機能、さらには景観にも配慮しつつ、整備済みの遊歩道や緑地とのネットワークを図って、「青い森」の都市を象徴する緑とオープンスペースの拠点とするといった整理をしている。

B であるが、市街地全体の利便性を強化する交通結節点ということで、こちらについては、市街地の中心部と新市街地間のアクセスを強化し、南方との接近を図る意味でバスターミナルの配置、新駅の設置という在来線鉄道の有効活用ということで整理している。

C であるが、こちらについてはどこからでもアクセス容易な交流拠点ということで、何よりも市街地の中央にあるとい

うことで、交通利便性の向上が図られることから、文化活動や生涯学習などをはじめとする多様な交流の展開できる拠点といった整理である。

4 ページ

D で補完的な機能ということで、健康福祉の観点から、それからもう一つは D2 において、資源・循環エネルギーモデルゾーンということで、環境負荷の少ないエネルギー循環システムの構築といった視点での取りまとめがされている。

5 ページ

土地利用等についての基本的な考え方については、ここに 5 つ掲載されているとおりである。

次の土地利用ゾーニングであるが、A、B、C ということで 3 つに整理しており、一つ目が交通拠点（駅前）ゾーンという形。それから次が緑の交流ゾーン。3 点目がみどりのネットワークゾーンということで、基本的な考えを整理している。

6 ページ

交通動線としては、車やバスでのアクセス、更には歩行者、自転車といった視点ということで、整理している。

7 ページ

土地利用ゾーニングのイメージである。

8 ページ

土地利用、施設整備の方策ということで中央地区という捉え方で、(1)では、整地形状を考慮した空間づくり、何よりも東西に長いので、そういった敷地の特性を考慮することと、(2)としては、建築物、構造物とランドスケープということで、一目で見られる景色の広がりといった意味での一体となった総合的な空間づくりという視点で、黒の丸が 4 つあるが、連続したみどりの空間整備であるとか、建築物の整備、これは建築建物の上部の緑化であるとか、あるいは半屋外空間の活用とかということが、整理されている。

その他は駐車場、駐輪場としての整備、最後には青森市を代表するランドマークということで、八甲田山などを活かした景観づくりをおこなうということが記載されている。

9、10 ページ

イメージ図が 9 ページ目にあり、次の 10 ページがみどりのネットワークのイメージである。

11 ページ

この時点での課題ということで、(1)市全域の連携において、9 ポイントほど課題が整理されている。

(2)県・市有地の一体的な利用では、県・市有地の一体的な利用といった視点でも確保するというので、まとめられているところである。

12 ページ

計画の推進方策と住民参加ということで、具体にはそういう整備を進めるに当たっては、できるだけ多くの市民が参加し、ともに作りあげていくこと、利用方策についても市民からの意見やアイデアを集めて市民参加で検討していくと、心のよりどころになる青森のシンボルとなっていくことが望まれるといった整理がされている。

13 ページ

長期的な視点から見た市全域との連携というイメージ図となっている。

跡地利用構想についての説明は以上である。

資料 3 2「青森操車場跡地利用計画素案」に対する市民意見について

2 については、市民意見であり、こちらについては先ほど説明したとおりである。

資料 3 3「地震時等における大規模な火災の可能性があり、重点的に改善すべき密集市街地」の地区数・面積一覧

先ほど説明したとおりである。

資料 4 避難所の定義について

こちらは、2 ページにわたって整理をしている。

1 ページ目が定義ということで、左側が防災拠点の定義、真ん中が避難地の定義、右端の方が防災公園の定義である。

各々出典を明記させていただいており、防災拠点については、平成 15 年の消防庁による定義、それから避難地につきましては国土交通省のハンドブックからの定義。

具体には、広域避難地及び一次避難地の規模と構造に関する計画指針ということになっている。

右端の方が、同じく国土交通省、当時の建設省からのものであるが、これは防災公園のタイプ別の整理である。

2 枚目の資料が、平成 19 年の 3 月に青森市が策定をしている青森市地域防災計画からの抜粋であり、左側が避難所の選定ということで、例えば避難地区は小学校区単位だとか、避難所の規模や設置基準については、例えば一人あたり 2 m²で位置づけとか、そのような広域避難所についてはおおむね 10ha 以上の公園や公共空地を指定といった考え方を整理している。

真ん中の部分が、地震火災に対する避難所の選定というところであり、特に真ん中の四角には、例えば避難所における貯水槽、仮設トイレ、通信設備等の避難所の設備の例を掲載している。

右の方は、避難標識の整備や避難路の選定ということで、機能的な考え方を掲載しているところである。

資料 5-1 住所別人口集計表

9 月末の住民基本台帳からの資料であり、住所ごとに整理をした資料となっている。

補足すると、今回、審議会で土地利用を考えていただくこととしている青森操車場跡地におおむね隣接している地区ということで、資料から拾い上げたところ、この青森市の人口約 30 万 1 千人のうち、約 2 万 4、5 千人の方がこの操車場跡地地区に隣接して居住していることになる。

具体には、古川、長島、中央、それから奥野、これが北側。西側では、北金沢、旭町、南側が桂木、東が浦町というところで、約 2 万 4、5 千人の方が居住している。

資料 5-2 青森市公園・遊園・開発緑地位置図

青森市の公園、あるいは緑地等の位置図であり、少し見づらいかもしれないが、赤く着色している部分が公園緑地等である。

資料 6 都市防災不燃化促進

こちらの事業のイメージについては、下の整備効果イメージにあるとしており、避難路を指定し、かつ、その避難路の両側約 30 メートルを不燃化、つまり、燃えにくいように促進するといった事業である。

この内容については、国のホームページをまとめたものになっている。

資料 8 「青森市新総合計画 元気都市あおもり 市民ビジョン」基本構想・前期基本計画（抜粋

10 ページ

「青森市新総合計画 - 元気都市あおもり 市民ビジョン - 」のあらましということであり、この資料については、基本構想と基本計画という 2 つで構成している。

基本構想とは、平成 22 年に策定をしてから平成 32 年度までの 10 ヶ年における市の長期的総合的な視点から効果的・戦略的なまちづくりを展開していくために、本市のまちづくりの一番上の最上位指針として、将来都市像やその実現に向けた施策の方向性を示しているものである。

基本計画とは、その 10 年間のうち、前期 5 年、後期 5 年ということで、基本構想に掲げる将来都市像の実現に向けた具体的な取組みを示しているものである。

26 ページ

まずは、基本構想であるが、都市拠点整備の基本方向というところで、中心市街地、新青森駅周辺、それから操車場跡地、浪岡駅周辺ということで、4 つの地区を都市拠点として位置づけており、それぞれの役割に応じて、能力を最大限に発揮して、その相乗効果によって、本市の魅力を向上させる地区形成を進めるとしている。

にあるのが操車場跡地地区であるが、操車場跡地地区については、「鉄道新駅などの交通施設整備を進めるとともに、地球環境に配慮した「青い森」を象徴する 緑豊かな交流拠点 として、低炭素型の先導的な地区形成を進めます」といった整理をしている。

43、50 ページ

次に、前期基本計画についてであるが、2011 年から 2015 年ということで中表紙(43 ページ)があり、50 ページのところで元気都市あおもり・リーディングプロジェクトということでイメージ図がある。

このイメージ図にあるように、5 番目に都市力を増幅させる拠点づくりプロジェクトとして、(第 1 章から第 6 章にかけて)横断的にイメージが記載されている。

58 ページ

戦略 1 において、都市拠点機能の充実の 4 つの都市拠点、中心市街地、新青森駅周辺地区、操車場跡地、浪岡駅周辺地区の中で、操車場跡地地区については、緑豊かな交流拠点の実現に向けた空間整備の推進という整理をしている。

179 ページ

第 6 章の拠点の形成というところでは、広域交流拠点の状況として、「操車場跡地地区については、鉄道新駅などの交通施設整備を進めるとともに、地球環境に配慮した「青い森」を象徴する緑豊かな交流拠点として、低炭素型の先導的な都市環境を創出する地区形成を進める必要があります」としている。

182 ページ

具体的には、操車場跡地の地区形成 において、「県や民間事業者などと連携を図りながら、「青い森セントラルパーク 低炭素型モデルタウン事業実施方針」に基づく、緑豊かな交

流拠点としての実現に向けた空間整備を進めるとともに、交通結節点としての利便性向上に向けた新駅設置などの交通施設整備を進め、先導的な都市環境を創出する地区形成を図ります」という表現があるが、モデルタウン事業は昨年10月に中止したことから、この表現について削除・修正をする方向で整理を進めようとしているところである。

資料 9 青森操車場跡地利用計画推進事業（決算額）

平成21年度は483万円、22年度が862万1千円、23年度が484万7千円であり、いずれも低炭素型モデルタウン構想、あるいはそれを進めようとしたときに要した費用である。

資料 10 青森市総合都市交通戦略（抜粋）

2 ページ

基本的な考え方としては、人口減少、少子高齢化が進行して、更に高齢者等の増加が予想されるといったところを踏まえつつ、より環境負荷の低い交通体系への転換が求められているといった整理のもと、特に新幹線開業など本市特有の環境変化に対応して、コンパクトシティの形成や中心市街地の活性化に対応した総合的な都市交通環境の整備を進めるといった整理をしている。

19 ページ

この操車場跡地地区については、平成22年度の新幹線新青森駅開業や並行在来線の経営分離を見据えつつ、環境にやさしく通勤時や積雪時においても、信頼性ということで時間が確保されるという意味で、鉄道を有効に活用して、路線バスとの有機的な結合によって、中心市街地や交流拠点と周辺市街地とのネットワークの整備を推進していくという整理をしている。

資料 11 用途地域ごとの建築物の用途制限

当操車場跡地地区の土地がこういった建物が都市計画の用途上建設可能なのかといったところでの資料であり、上の表の黄色になっている部分が第一種住居地域ということで、線路より北側の地区はこの地域になる。

線路より南側については、紫色の準工業地域ということになっており、建設立地可能な施設についてはこのような一覧表で整理している。

資料 12 意見集計表（低炭素型モデルタウン事業時）

昨年7月に低炭素型モデルタウン事業に対して、市の方に提出された、174人の方からの219件の市民意見を整理したものである。

	<p>内容については手元の資料のとおりである。</p> <p><u>資料 13-1 青い森セントラル低炭素モデルタウン構想検討会（第3回）メモ</u></p> <p>低炭素型モデルタウン構想を検討した際の議事録ということで、第3回の検討会において質疑応答等があったことからその内容を資料としている。</p> <p><u>資料 13-2 青い森セントラル低炭素モデルタウン構想</u></p> <p>構想の目的、目標と方針については1、2ページにあるように、7つの目標とそれに対しての方針を整理し、モデルタウン事業を進めようとしたものである。</p> <p><u>資料 14「青い森セントラルパーク全域を防災のため公有地として継続して管理することを求める請願」採択に関する議事録（抜粋）</u></p> <p>昨年（平成27年）の第3回定例会の議事録の抜粋である。</p> <p>こちらについては、最終日の9月28日での議員の方からの意見、請願の文書、都市建設常任委員会委員長報告ということで、資料としたところである。</p> <p>説明は以上である。</p>
菅議長	<p>（これまでの資料と説明で）これまでの経緯、あるいは背景、それから総合計画の中での位置付け、この地域をめぐる過程など、ある程度見通せたのではないかと。</p> <p>それらを踏まえ、我々のこれからの議論に移りたいと思う。様々な資料があるので、なかなか的を絞りにくいかもしれないが、気づいた点やさらに確認したいことがあればお願いします。</p>
木村委員	<p>防災のことばかり言うような感じになってしまうのだが、まず資料1の跡地利用構想のところ、1ページ目でメインの4つのテーマがあるが、この中に市民意見でも59件の意見もきている防災機能としての公園という大項目も入れておいた方がいいのかなという気がした。</p> <p>都市ゾーンのアオアシスとなる緑のセントラルパークの中にちょっと入っているが、これではあくまでも何か一つの部品というか、その程度のものなので、防災公園として何が必要ですよとか、例えば防災機能としてこういうものが必要であるとか、大項目で防災公園というのであれば、そのような形に構想もなっていくのかなという気がした。</p> <p>緑のアオアシスの中に防災機能も入るといって、付け足しみたいなものよりもそのような形にした方が市民にも受けがいいだろうし、時代にも合致していくのではないかと気がした。</p>

	<p>た。</p> <p>その裏付けとしては、青森市内の防災公園のマップがあるが、セントラルパークの地域、場所と言えば、旭町、金沢、中央、古川の辺りには公園が全くない。</p> <p>そういう場所からしても、このセントラルパーク低炭素モデル地域という部分での公園の必要性、あるいは広域避難地、青森市では5ヵ所認定されているようであるが、現在この場所もそうなのか、あるいはこの5ヵ所とはどこなのかも教えてほしい。</p>
事務局	<p>広域避難所は5ヵ所ということで、宮田の運動公園（新青森県総合運動公園）、安田の運動公園（青森県総合運動公園）、野木和公園、合浦公園、青い森セントラルパークである。</p> <p>それから、平成9年の跡地利用構想に対するご意見であるが、15年前に構想として既に策定済であるので、これを踏まえ、土地利用の方向性を皆さんでご議論いただきたいと思っている。</p> <p>もう一点は公園が少ない地区があるということのご意見だったと思うが、そちらについては、緑の基本計画に沿った形で整備を今後進めていくという考え方である。</p>
木村委員	<p>構想はこれからまた新たにできていくという認識でよいのか。</p>
菅議長	<p>構想を踏まえて、新たに計画をつくるので、その中で木村委員の発言のように防災機能ということをクリックアップさせるということはこれからの議論になると思う。</p> <p>他にないか。</p>
櫻田委員	<p>暫定的に供用しているセントラルパークの整備に要した費用と直近ここ3年くらい年間の維持管理費として、どれくらいの費用がかかったのか。</p> <p>今後の議論の参考にしたいので、お知らせいただければと思う。</p>
事務局	<p>（青い森セントラルパークについては）平成15年度から暫定利用ということで、今の形で市民の方にご利用いただいているが、このときに整備に要した費用については、県と市の部分も含めて整備費用として3億数千万円である。</p> <p>セントラルパークの年間の維持管理ということで申し上げますと、市の部分が約180万円で、県の部分というのが、芝生や木があるため、草刈り等の費用も発生することから、およそ年間一千万円程度の維持管理費用である。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>

種市委員	今の質問と関連するが、このセントラルパークにおいて市の方で地盤調査はしているのか。
事務局	建物あるいは土木構造物を造るために地下何十メートルといった部分の調査しているのかという意味での質問でよいか。
種市委員	よい。
事務局	そういう意味であれば、行なっていない。
種市委員	そうすると今の額の中に入っていないということか。
事務局	先日現地をご覧になっていただいているとおり、表面部分だけを公園の形態にしている、地下のどこに固い地盤があるとかという意味での調査は行なっていない。
菅議長	他にないか。
猪原委員	<p>交通結節点について、市で結節点と言われるイメージと我々がどういうイメージを持ったらいいのかという点が曖昧であるので、市ではどういうイメージなのかを説明いただきたい。</p> <p>平成9年の利用構想（1 青森操車場跡地利用構想）、3ページのところの交通結節点において、バスターミナルや新駅の設置など、都市ゾーンの第2の玄関口として利便性の強化、もしくは横断する道路等の整備と書かれてあるが、これをどの程度まで真面目に捉えていいのかというところで正直判断がしづらいというところがある。</p> <p>個人的には、結節点というか、やはり南北で横断できる車の道路が必要なのではと思う。</p> <p>やはり観光通りとか中央大橋などの道の混雑ぶりを見てみると、もう少し幹線道路というのが、コンパクトシティを標榜する中で足りないのではという気がしている。</p> <p>そうすると、こういうところで交通アクセスを確保することが非常に重要ではないかということが個人的な意見である。</p> <p>例えば9ページのイメージ図では、道路が下に入って行って、向こう側に抜けるようなイメージが書かれているが、これが私のイメージに近い。</p> <p>実際どこまでこのイメージを捉えていいのかというところで、ご参考までに市のイメージをご説明して欲しい。</p>
事務局	<p>順序が逆になるかもしれないが、この構想（1 青森操車場跡地利用構想）の3ページのBの南北市街地の連絡強化とあるが、どの程度までかということ。</p> <p>また、9ページに実際のアンダーパスの立体交差の絵があ</p>

	<p>るが、市の考えはどうかということであるが、当時、平成 9 年に利用構想を整理した際には、このような基本的な考え方であったかと思うが、この線路の下を地下道でくり抜けて行くとした場合に、例えばこの近くで実例としてあるのが、旭町の二車線の地下道だが、道路から下を潜って（上の道路に）タッチするまで 600 メートルぐらいの延長がある。</p> <p>更に、当時の基準であれば縦断勾配が 6% ということで整備しており、延長が若干短くなっているが、今の基準であれば、このようなアンダーパスの場合には、縦断勾配が 4% にする必要があるということ踏まえると、距離が非常に長くなって接続するポイントが絵のようにはならないのではないかとということ、また、費用面でも難しいのではないかと考えている。</p> <p>また、交通結節点のイメージということであるが、「交通結節点」という言葉は非常に大掛かりなイメージに捉えがちな面もあるかもしれないが、あくまでも鉄道駅があって、駅に乗り継ぎ・乗り換えをする、そのようなポイントだという意味で、バスやタクシー、あるいは乗用車の送り迎えする機能ということ考えている。</p> <p>現状で想定しているのは、こちらの操車場跡地地区に仮に駅が設けられたとしても、野内駅や今工事している筒井駅、そういったイメージの無人駅程度だろうということでの想定である。</p>
菅議長	他にないか。
野澤委員	<p>まず第 1 に、我々がこの審議会が諮問事項としてきたのは、鹿内市長からの 3 つのポイント、(1) 防災公園を備えた公園としての利用について、(2) 新駅設置を含む交通結節点としての利用について、(3) 公共利用の観点から公共的な施設の建設用地としての利用について、を議論するという内容に戻るのだが、まず、私は前回も話したが、議論は平成 9 年に戻らなければならない。</p> <p>今回資料に出ている平成 9 年の構想（ 1 青森操車場跡地利用構想）というものがあるが、そのあと平成 13 年に県と市の方で、操車場跡地の早期利用計画案ということで、いきなりセントラルパークに対して低炭素型をつくらうということで、多くの議論がそちらに推移し、この 5、6 年以上 7 年間、8 年間は全然平成 9 年からの議論が進んでないということは何回も話したと思う。</p> <p>だから、資料として平成 9 年ではどのようなことを話して</p>

いたのか、確かに極端な防災というような言葉はないが、交通拠点としての新駅とか、それから緑豊かな交流拠点という、ある程度建物を意識した、そのような跡地利用などがいろいろ書かれていたわけである。

ところがそれが全部ひっくり返って、低炭素型のモデルタウンになり、それが今なくなり、中途半端な中で防災を意識して語ってほしいというのが、今の立場だということを私は理解している。

だから、本来、平成 9 年度からそのあたりに大いに議論した緑豊かな交流拠点というのは、何も緑だけをいっているのではない。

様々な都市機能として必要なものを羅列しているものもある。そういうものをもう一回我々議論して、たまたまさっき森内委員が話したが、例えば前提としてコンパクトシティ構想というもの、それから今市長が掲げている現青森駅を中心とした市街地の活性化である現駅を中心としたまちづくりと、それから浪岡、それと今の操車場跡地、それから新青森駅、そのような中で、全体の計画のバランスの中で、今貴重な青森操車場跡地というのはもう一回何が必要だったということを議論しなければ、降って湧いて飛んでいった低炭素型がなくなったので、そこに急遽出てきた防災というのが先行して拠点という形がよいのか、ただの公園でいいのかどうかということをおもさんもう一回議論して欲しい。

私たち商工会議所は何が一番言いたかったかと言えば、あくまで青森市、浪岡含めて全体のバランスのとれた都市計画の形をつくらなくてはいけない。

その中での青森操車場跡地であると思う。

あの時点でそこに低炭素型モデルタウンというのは少しおかしいのではないか。

公的物をつくるべきだ、公共利用とするようなものは大いに皆さんで議論していきたい。

都市計画の中で何が必要かということは、会議所自体は答えていない。

それは皆さんとともに議論していくべきだというスタンスである。

だから、いきなり防災から始まることもおかしいし、ただ防災というやつは、1 年半前の震災で大いに議論が出てきたことであるので、これは新しい要素として大きく要素としては拡大してきているが、あくまでも青森市をまちとして、機

	<p>能としてのこの拠点としてどうあるべきかを議論しなければならない。</p> <p>ただその後出た防災に関しては、私もある意味ではかなり重要視しなければならないというスタンスである。</p> <p>あともう一つ、市の方に聞くが、最後の資料で出てきている議会が決めた請願書（ 14「青い森セントラルパーク全域を防災のため公有地として継続して管理することを求める請願」採択に関する議事録（抜粋））があるかと思う。</p> <p>それに対して、色々な意見の講釈が出ているが、防災機能としての公園を目指すという、この方向で議会は認めていて、それを前提としてよいのか。</p> <p>それともそうではなく、総合的な跡地利用として、様々な選択肢は可能なのかということだけ聞きたい。</p> <p>議会が決めた内容について、少しそれも頭に入れないとダメだと思う。</p>
事務局	<p>こちらの請願は市議会議長宛に提出されて、市議会としてこちらを採択したわけであるので、市議会としてはこのとおり全域を公有地として継続して管理することを求めるということになる。</p>
野澤委員	<p>ということは、あくまでも請願のとおり、その時点ではそう認めたということになるのか。</p>
事務局	<p>市議会ではこれが賛成という判断である。</p>
菅議長	<p>今の議会の話で、安全のためとかいろいろ書いてあるが、つまるところ切り売りすることは受け入れがたいという意味だと思う。</p> <p>だから、これをどのように盛り込んでいくかということの特に限定したいものではないのではないかと私は理解している。</p>
森内委員	<p>このような資料があるので、よく分からなくなることもあるという気がするが、防災の観点からいうと、この間は地震という災害があった。</p> <p>今までは地震だけだったが、3.11の場合は津波もあった。</p> <p>防災というのは、テポドンが飛んできて防災の一部、大間原発が完成して、メルトダウンするときにはやはり核シェルターくらいは必要と思う。</p> <p>大きな意味で考えていくと、請願書云々じゃなくて、このエリアをどうしたら市民のために利用していくかということで議論すべきだと思って、その中に防災が入っていても良いのではないか。</p>

	<p>その防災の種類も核シェルター位のものがあってもかえって売りになるかもしれない。</p> <p>商工会議所も、その辺も十分考えていると思うが、そういう論点でいった方が、もっと楽しいまちづくりができそうではないか。</p> <p>私が一番気になっているのは、線路がまちを分断、要するに切ってしまうということである。</p> <p>線路が通るとするとつながっていかない。</p> <p>高架をいかに県の方に陳情するか。</p> <p>事務局で、勾配が4%でどうのこうのと話していたが、青森は積雪エリアなので、まずはそのフラットにしたい。</p> <p>フラットにして、都市計画を進めていかないと線路がまた邪魔になって、場所も分断したままになってしまう。</p> <p>防災も確かに大事だが、もう少しフラットなまちにしたいという感じはしていた。</p> <p>そういう楽しいことをここで皆さんと話したらどうか。</p>
菅議長	他にないか。
櫻田委員	<p>請願が市議会で可決されたということは非常に重いことだと思う。請願の文書の最後に色々な話が出ていますが、やはりそこに書いてあるのは、「都市防災強化のため、青い森セントラルパークを今後とも公有地として継続管理し、市民の安全のためのスペースを確保していただきたい」と文言で締めくくっている。</p> <p>だから、市はこの請願をベースにしながら、こういう案を作ってきていると思うので、この請願の文書というのは、すごく重いものだと解釈しており、そのような前提を一つしていかなければならないのではないかと思う。</p> <p>色々な議論の発展はかまわないと思うが、前提にしていくべきではないかと思う。</p>
菅議長	他にないか。
木村委員	<p>私も先程から防災のことを話してきた。</p> <p>同じ意見だが、防災がなければいけないとか、これを見ると当然必要だとは思いますが、そこだけに特化するのではなく、防災を機能を持った何かとか、そういうことが必要なのではと思う。</p> <p>もっとアイデアがあるのではないかと思う。</p> <p>例えば雪国型の防災機能とか、そういうものもあるだろうし、現実として4ヶ月も雪の中に埋まっている青森だから、そのような新しい形のものがあると思う。</p>

	<p>防災機能を備えた市民ギャラリーなど、そのようなアイデアというのがたくさんあると思う。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
小川委員	<p>確かに森内委員が言ったことも、この中に 100 人委員の方などがアイデアだとか、意見として出ている。</p> <p>素晴らしいことを皆さんが言っていて、私はここに出てくるのが恥ずかしく感じた。</p> <p>だから、私もいろんな方が意見出してやるのはいいと思うが、さきほど野澤委員が言ったように、市長から言われた 3 点を重点的に我々は話していった方が良いと思う。</p> <p>あと 6 回ぐらいしか（会議が）ないわけだから。</p> <p>私はこれを見て、素晴らしいと感心した。</p> <p>だから、いい勉強になっていたんで、皆さんも多分素晴らしい意見があると思うが、さっき野澤委員が言った 3 点を重点的に意見の交換をした方が私は早いのではないかと考えている。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
三浦委員	<p>確認の意味でも話したいが、 1 の操車場跡地利用構想、これはさっき話があったように、15 年前につくった計画で現時点では内容がそぐわないものもあろうかと思うが、この利用構想とあとに出てきた 8 の青森市新総合計画、 10 の交通戦略、これらは連携しているものなのか。</p> <p>それとも 1 の利用構想を除いて、あとの 2 つが連携しているという考え方でいいのか。</p> <p>あるいは 1 はあくまでもまだ活着しているという考え方を持ったらいいのか、それを委員会で修正するだという考え方になったらいいのか。</p> <p>その辺を確認の意味で伺いたい。</p>
事務局	<p>8 の新総合計画、そして 10 の交通戦略、これらについては、当然関連するものである。</p> <p>1 の跡地利用構想については、現時点においても、中央部のセントラルパーク以外は土地利用が具体的にされていないということを踏まえると、この構想は活着しているかどうかという表現であれば活着していると考えている。</p> <p>15 年という時間が経過しているということもあるが、先程から議論があるように、防災などといった観点で、この構想を修正するというのではなく、構想は構想としてあるので、これを踏まえつつ、諮問している 3 つの土地の利用性の方向性について議論してまとめていただければと考えている。</p>

三浦委員	では、この審議会で 1 の資料にあるような利用構想というものをつくるという考え方で進めていってよいか。
事務局	<p>当審議会においては、3 つの土地利用の方向性ということで、素案という形で示しているが、それを踏まえて計画をまとめていただきたいというのが、我々の考えである。</p> <p>この構想を修正するとかということではなくて、これは 15 年前の構想として受け継いでいるので、これを踏まえて色々ご議論いただきたいと考えている。</p>
菅議長	<p>拘束される必要はないということかと思う。</p> <p>他にないか。</p>
木村委員	低炭素モデルタウンとか低炭素に対する研究する場所でもあってもいいと思う。モデルタウン構想が無くなったから、低炭素をやめてしまうというのも少しおかしいと思う。
事務局	モデルタウン構想は中止したので、そういったモデルタウンということで、住宅に特化したようなそういう研究ではなく、例えば、公園であれ、今後議論になる公共的な施設であれ、今後何もないうまさらな土地の状態のところ立地していくことになると思うが、新たに建設するもの、新たに設置するものについては、なるべく二酸化炭素を出さない、低炭素型の考え方というのは当然基本的な考え方として必要だと考えている。
菅議長	他にないか。
櫻田委員	<p>今の木村委員の話と関連するが、低炭素型、例えば公園には街灯があるが、昨日夜暗くて怖いという話があったので行ってみたら、間引きで点灯しているような感じであった。</p> <p>多分そのような細工をしているのかとは思ふ。</p> <p>小さな話であるが、例えばそういったところで、ソーラー発電をすとか、そういったことも低炭素につながっていく。</p> <p>そのような意味では広いエリアの中で可能な部分もあると思うので、それはそれで審議会のアイディアを出していけたらと思う。</p>
菅議長	<p>私からも一つ、質問したいが、市民の意見で防災について色々な意見があって、大きな防災の拠点をつくってもいいのではないか、むしろそういうものが各地にあった方がいいという意見があったかと思う。</p> <p>建築専門の方に聞いてみたいのだが、防災拠点というのにはある距離（大きさ）があって、大きな広大な土地があるということは意味がないのか、それともそれなりに意味があるのか、その辺について意見を見ながら疑問に思った。</p>

	<p>建築に詳しい方に教えていただきたい。</p>
<p>木村委員</p>	<p>広域避難場所としては一応 10ha 以上という国の基準があるが、要するに火災が起きたときに火の熱から人が何メートル以上離れないと危険というラインがある。</p> <p>そういう部分から例えば青森の場合、個人的にやったものでは 70 メートルぐらい離れないと熱風で人が立っているだけで洋服が焼けてしまうとか、そういう現象があるようである。</p> <p>それからこの（青い森セントラルパークの面積）12ha について計算していったところ、確か 2 万何人かの人しか収容できないという数字を出したこともある。</p> <p>だから、そういう広い広場というのは必要だということである。</p>
<p>菅議長</p>	<p>他にないか。</p>
<p>野澤委員</p>	<p>送っていただいた資料を見て、感ずることについて、この諮問事項 1、2、3 に沿って少し私なりに整理したことを述べたいと思う。</p> <p>まず防災公園という事に関しては、大きい拠点というのと、何もつからない方も一つの防災だろうという極端な意見の中で、周辺の方々から絶対と言われたことは、特に西側の南の方の道路がせまい。</p> <p>いくら公園をつくっても冬になれば、いわゆる機関区の裏通りが我々この前見たところが非常に狭くて、そんな防災どころではないようなところなので、道路を広くして欲しいということが圧倒的にあったと。</p> <p>それと今回いただいた避難地のマップを見れば、圧倒的に旭町、古川、長島、それから大野の北の方ですね、その辺に足りないということがわかる以上は、当然そういうアクセスとその辺に対する防災的なものが入るといふものが必要だろうというのが資料で感じたことである。</p> <p>規模的なものであるとか、拠点という事に関しては、津波とか原子力の事故のときとか、防災拠点という言葉が出ているが、それが大きく必要であるかどうかといふのは、まだ自分が頭の中では整理してない。</p> <p>それと、次に新駅を含む交通結節点といふことの利用について、様々な市民の意見であるが、先程、小川委員が言ったようによく語ってくれているので、非常に参考になったのだが、逆に今の市から何気なく絵で出ているような結節点といふのは非常に大したことがないのではないかと。</p>

少なくとも市民が感ずるのは南北を分断している青森操車場跡地に対して、南北横断型になれるような一つの機能、そういう道路、それと、もしできるとすれば新駅、そこに対するアクセス含めた要望があったものと思っている。

前回いただいた市の素案という形でいけば、その辺が周辺の整備含めて非常に曖昧であって、弱いということを率直に感じたところ。

それと、市民の声の中で非常に心配していたのは、何%かアンケートにて新駅必要でないという方がいて、ただ新駅が具体的に一日 780 人くらいのマックスであるという予想は、正直言えば私も衝撃的に利用が少ないと感じる。

新駅をつくる以上はそれ相応の効果を何かしら期待するように仕掛けなければだめだろう。

それが単にあの周辺に駅があればいいという安易な求め方では、この審議会は済まないだろう。

従って次の(3)の公共利用の観点から公共的な施設の建設用地というものは、そういう利用を含んだ上での公的な建物ないし、拠点というものの建設がどこまでバランスよく求められて、先程から私が言っているように、青森市の現駅、新青森駅、浪岡駅、そして青森操車場跡地という 4 つの機能的な大きい一つの都市計画の整合性、バランスの中で何が必要であるのかということ議論して、今言った 1、2、3 のバランスも他では頭の中にいれながら、考えていかななくてはいいないだろう。

いただいた資料は正直言って、読むのに 3 時間かかる。

皆さんそれくらいやっているかと思うが、私が理解するのはそれくらいが精一杯だった。

斜め読みして、よくよく理解するのに 3 時間。

ただ貴重な資料であったことは間違いのない中で、私のまとめはそういう感じである。

そういう議論の中でやはりひとつ大きいのは、私は平成 9 年に戻るのではなくて、あのときも大きい議論したと思うが、やはり貴重な跡地である以上は、この 3 つをどのようにして形をつくっていくのか。

貴重な跡地である以上は、テーマが偏ってもおかしいだろうし、その辺の議論を少しまとめていくようにしていければ、より具体的にイメージがつかれるのではないかと思う。

それから、防災についてであるが、新町は津波がきて逃げるところは長島小学校である。

	<p>無理である。お年寄りが長島小学校に行くのは無理だと思う。</p> <p>それから八甲通りもどん詰まりで線路があれば逃げ場がない。それは津波の話である。</p> <p>ただ、例えば、大間の原発のように、14キロ断層があって、マグニチュード7、8ぐらいのものがある。何万年とか十何万年に一回かもわからないが、多少の議論の中であまり怯えてもだめだとは思いますが、基本的に道路がなければ逃げられないわけであるので、やはりあの一角周辺の道路の環境とか、そのようなものも含めた単なる駅を中心にした交通結節点という意味以上に、防災含めてやるのだったら、かなりの道路的な整備も視野に入れていかなくてはいけないだろう。</p> <p>それと我々商工会議所は、低炭素型モデルタウンに反対したのではない。</p> <p>民間に売却するのはおかしいだろうということである。</p> <p>低炭素型のモデル、それから循環型のまちづくりは、大いに青森市はすべきであるし、それはどの町内でもどこでもできることはやっていかなくてはいけない。</p> <p>その限りでは、先程も木村委員も言ったように、青森操車場跡地に関しては、どういう建物とか周辺を含めて、そういうモデルであるべきだと思う。</p>
菅議長	<p>今日は出てきた資料を中心に話をすることでやってきたが、資料関係については大体よろしいか。</p> <p>野澤委員から今回の資料全体について、あるいはこれからの方向性についていろいろと示唆に富むお話しがあったかと思うが、次回からいよいよこれを踏まえてどう考えるかということになる。それについては、猪原副会長や事務局と話し合いをしながらやっていきたいと思う。</p>

(3) その他

〔配布資料：なし〕

分科会の設置に関して

菅議長	<p>前回、確か分科会もいいのではないかというご意見あったと思うが、もちろん私も分科会でいろいろ考えることは非常にいいことだと思うが、まずは、(3つの土地利用については)それぞれ関連する事柄であるので、一応全体で話し合いをしながら、必要であれば分科会をつくと、そうしたいと思う。</p>
-----	---

質疑等
特になし。

次回会議に向けた意見交換

菅議長	今日のところはこのようなまとめでよろしいか。 他に何かないか。
野澤委員	資料は皆さん見てきたと思うので、私だけでなく、せっかくのこういう質疑応答、意見交換みたいになっているので率直な感想などを皆さんで述べて、それで次どうするかという、そういう議論した方が良いのではないか。
菅議長	様々な意見があり、なかなか一つの感想でくくりにくいかと思うが、それはそれとして皆さんから（資料を）読んだ感想なり、あるいは自分はこういったことに特に重視したいということなど、どうぞお気づきの点を紹介していただければありがたい。
福士委員	私の感想としては、何人かが話していたが、3点の諮問事項に限定して議論を進めていっていいのではないかと私も思っていた。 その上で私の考えとしては、まず1番目の防災公園を備えた公園としての利用については、基本的にはこの内容を盛り込んでいっていいのではないかと考えている。 防災公園がどういったものになるかは、公園全体の大きさ等にも関係してくるので、その大きさ等から青森市にとって最適な防災公園としていけばいいのではないかと考えていた。 新駅設置を含む交通結節点、これに関しても、駅中心の結節点としてはぜひ進めていってほしいと個人的にも思っている。 ただ、高架にするのか、地下をくぐらせるのか、はたまた道路を本当に通していいのか、これはぜひ議論をしていってまとめていきたいと思っていて、本当に道路を中心としたまちづくりがこの先いいのかというのを個人的には疑問に思っていた。 3番の公共利用の観点から公共施設の利用についてであるが、これが恐らくかなり時間がかかる問題じゃないかと思っていて、公共的な施設だけが公共性を担保するのではなく、例えば市民活動とか様々な公共性というのがあると思うの

	<p>で、その辺も踏まえて例えば植樹をしたり伐採したりとかの森林の管理だとか、その辺も含めて公共性というものを施設からだけじゃなくて、違った面からも議論していいのかと思った。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
三浦委員	<p>少し誤解を招いたかもしれないので、それも付け加えながら申し上げたいと思うが、さきほど申し上げた 15 年前の操車場跡地利用構想(1 青森操車場跡地利用構想)、これについてこの 2 ページの基本的な考え方のところ「新しい都市づくり、魅力あるまちづくりを進めるための好機と捉え」とあり、操車場跡地がこれらを形成する好機であるということをここで謳っているわけで、15 年前に既にこういう考え方があるわけで、これはやはり踏襲していくべきであるし、何回か出ている市長からの 3 項目の諮問について、これが全て総括するとこういう言い方になるのではないか。</p> <p>人口が目減りしているなかで操車場跡地をどう活用していくか、これが大きなこれからのキーポイントになると思うので、3 つの諮問の内容とこの 15 年前の利用構想の基本的な考え方、これを結びつけてこれから各項目について議論していったらよいのではと思う。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
種市委員	<p>私はこの資料を少し目通しただけなのでいろいろなことは言えないが、私はこの資料はあくまでも参考にするだけの資料だと思っていた。</p> <p>補足とか説明はあるのだろうが、この資料について議論することは毛頭考えていなかった。</p> <p>当然諮問された 3 つの項目については議論するのだろうが、その中で私が地盤調査しているかと聞いたのは、私の知っている範囲内では、青森市内というのは非常に地盤が弱い。</p> <p>雪が降る、あるいは地震がくる、それぞれ避難する上では、むしろ地下の方がいいのではないかという考え方があったので聞いたのである。</p> <p>これは、例えばであるが、避難するときの場所、例えば高いものつくったりするとき、当然地盤がゆるいと 3 階のものが 2 階になったりする。</p> <p>そういうつもりで私は聞いたのであるが、まだそういうことをやっていないという回答であった。</p> <p>だからこの資料はあくまでも資料として、これからは私の考えていることを発言していきたいと思う。</p>

菅議長	他にないか。
須藤委員	<p>先程皆さんから色々な意見を聞いているが、私もこれを見るのに時間はかかった。</p> <p>そして考え方については、私が今考えているのと合っているかかという、合っているようで合っていないような面もあるが、ただ捉え方としては防災とか例えば運動公園にするとか、色々な妙案が出ているので、これからいろいろ審議していくためにも、これを全て参考にする意味でもこれから考えてやっていけばいいと感じている。</p>
菅議長	他にないか。
後藤委員	<p>諮問事項 3 点上げられることに関しても色々ご意見あったが、何度か野澤委員の方から平成 9 年（の利用構想）のところにたち帰ってということで、当初のところでは市民の意見についてということで議論が上がっていたとは思いますが、中身はかなり盛りだくさんの内容となっている。</p> <p>これまでの市の様々な計画の中でどのように市民の意見が反映されてきたというところに関して、少し市の方から補足の説明があるのかと思った。</p> <p>例えば今日の市民の意見聴取の概要ということで、最初に資料 1 の 1 ページ目のところにあるが、市民の意見ホームページに掲載したものってこれだけで十分なのかというご意見が確か前回のときにあったと思う。29 件しかあがっていない。</p> <p>それから市民と職員の対話サロン、これに関しては一つ聞きたいのは、公立大の学生が対象になっているのだが、これは何か特定の理由があって、公立大の学生にしたのか。</p> <p>他の大学の学生さんも沢山いるし、市民と職員といった時に、この対象者を大学生にしたと、ちょっと最初に聞こうかと思ったが、議論が白熱しており、聞けなかった。</p> <p>このようなこととあわせて最後の 4 点目の市民意識調査というところに関して、確か年に 3 回ぐらいやっているはずで、今回ここでいただいた内容というのは第 2 回目の調査の資料で、第 1 回についても、まちづくりに関して、生活の確保面などの市の取り組みについてどんなことを考えているのかという市民意識調査をされていると思う。</p> <p>そのようなことは広くこの審議会で検討すべき市民の貴重な意見ということで反映させた方がいいのではないかとこのところがある。</p> <p>市民意識調査にしても直接操車場跡地に関わる部分だけが調査結果として提示されているので、例えばこれは速報値だ</p>

	<p>から仕方がないが、野澤委員の方から前回追加資料で出してくださいと言われた資料、12番の資料（12「青い森セントラルパーク低炭素型モデルタウン事業」の際の市民意見）に関して、平成23年の8月のホームページの公表資料ということで意見の集約がされているところだが、項目立てで分けられたのは、事業全体に対する意見ということで、市の方で集約されている部分であるが、それぞれどういった属性の方が、年代であったり外国人であったりそれぞれの地域であったり、アンケートを取る際に設定されているかと思うが、出していただいた資料というのが全てそういうのが分からない形でトータルでの数字しか出ていないので、それぞれの地域特性だったり、地域の住民の方の意向だったりということがわかるような集計結果であると、議論が深めやすいと思ったところである。</p> <p>だから、そういったことに関しても、追加でやっていただけなのであれば、対応していただければと思う。</p> <p>まだ私もこれまでの議論の流れを十分に理解できていないところがあるので、資料の話になってしまうが、もう一点だけ。</p> <p>私自身が出した9番目の跡地の利用計画推進について、括弧をかけてしまいましたのでご回答いただいたのが平成21年度以降のところだけの事業費の推移という形で、それも決算額だけが出ているが、この操車場の跡地というのをずっとこれまでの流れでということと話しているように、平成9年度のところで用地を取得され、それ以降ずっと早期の利用という形で、セントラルパークを提供されているところで、先程櫻田委員の方からもご指摘あったが、具体的にどういった事業が事業費としてどれだけ、数値としては事務局から概算で大体3億数千万という話でしたが、それだけではないのではと思う。</p> <p>関連する事業というのは、周りの道路の整備ということも含めてあると思うが、操車場に関わる面として考えたときの予算措置みたいなものの、これまでの推移と決算額を内訳も含めて示していただければと思う。</p>
<p>菅議長</p>	<p>今細かな詳細な資料の請求があった。</p> <p>できるだけ出していただきたいと思うが、我々は先のお話をこれからするので、それに必要な部分の資料にしたいと思う。</p> <p>また、これはなかなか大変だろうと思う。</p>

	<p>事務局で用意できるものはあると思うが、なかなか今の平成 9 年以降の周辺までとなると、なかなか拾いにくいのではないか。</p> <p>事務局から回答があればお願いします。</p>
事務局	<p>費用の面とか経費に関しては、具体的に公園整備以外はこの地区では行われていないので、整備費用については先程申し上げた 3 億数千万になる。</p> <p>それから、この土地を平成 10 年 3 月に県と市で購入した際の金額については、約 64 億円である。概ね市が 2 で県が 1 を負担している。</p> <p>それから市民意見の関連についてであるが、対話サロンについては、操車場跡地についてのみ実施しているわけではなく、市の様々な施策があって、団体からオファーがあるものについて行っており、その一環として今回公立大学でこのようなものを開催して意見をいただいたということで、ご理解をいただきたい。</p> <p>それから昨年 7 月の市民意見であるが、こちらについては、昨年の市と県が進めたモデルタウン事業の中で、民間業者の方から提案のあった計画に対してご意見をいただいたものであり、年齢や性別については聞いていない。</p> <p>この意見（昨年 7 月の市民意見）も含め、市民意見の反映については、もちろん先程話があった市議会の請願もそうだが、それらを踏まえつつ、素案という形で 4 月に取りまとめ、また、今後の審議の検討素材とすべく市民意見を募集したものであり、前回の会議においてもそのような形でご説明申し上げたので、ご理解いただければと思う。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
工藤委員	<p>私たちに与えられた使命ということで、この場所をどう使うかということを私は単純に考えている。</p> <p>今の市の財政から見ても、色々な良い希望を出したからといってできることではないと思う。</p> <p>これからの将来を見越して、色々な構想も出てくるだろうが、3 月までの短い期間で出せる結論はどのように利用するかだけだと思う。</p> <p>だから低炭素型タウン、そのようなものもこれからの将来の計画として持っていていいのではないだろうか。</p> <p>ただひとつ、どのように使うか、それが私は一番だと思う。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p>
櫻田委員	<p>この市民意見を見てどう思うかというのがありましたの</p>

	<p>で、その感想だが、新駅設置の交通結節点の話について、私は非常に興味を持った。</p> <p>自分なりに反対をストレートに述べている方、一方でやるべきだという方、あとは慎重に対処するという方が私の判断では 8 割ぐらいあって、非常に市民の方は駅望むことなただけども、経費の問題とか、色々な問題とかそういうことを考えると慎重だと私は思った。</p> <p>あとは、市民意識調査を見ると結構多くの 70 数%の人が防災機能を持った公園として利用すべきだという考えを表明されたということは大きいなという感じがした。</p>
菅議長	他にないか。
後藤委員	<p>先ほどは資料の内容的なところの質問であったので、感想と合わせて。</p> <p>市民の皆さんから意見として、櫻田委員も話したように、駅、新駅の設置にということにしても、9 年当時と大きく状況が変わって、既に青森高校の近くにも駅の設置が決まっているというような状況の中で、きちんとつないで、拠点として無人であっても駅を設置して、例えば通学とか、そういったことにきちんと使えるような形でという駅の設置の仕方もあるのかもしれないが、いずれにしてもあそこの土地というのが、野澤委員が先程から話しているように道路として見たときに非常に通りづらいということがある。</p> <p>これでいくと今日の追加資料、国土交通省の資料であったように、危険な密集市街地というところでここではその避難の確保がされているのか、されていないかということが新たな視点として入ったというのが、説明があったかと思うが、県の方でも平成 24 年度から防災公共という視点できちんと計画を立ててという形で進めていると思うので、それに伴って、ある程度やはり整備する部分は事業費もかかるわけなので、操車場というだけではなくて、そこへの避難路だったり、何か災害があったときの二次輸送の確保であるとか、色々なそういうもう少し余裕を持って、そこを取り巻く周りのネットワークのような形についての環境整備も必要だと思う。</p>
菅議長	<p>他にないか。</p> <p>今回は、今日話に出た内容、あるいは現状と課題について事務局の方でまとめて、それから今回の意見、市民意見、あるいは我々の意見、そういったものを踏まえながら議論してもらおうということで、現状と課題に関する資料が、事務局の方から準備されてそれに沿って議論していくという手順にな</p>

	る。 そのように今後展開をしてきたいと思うので、次回またよろしく願いしたい。
--	---

5 閉会

次回会議は、会長と事務局が相談の上、11月を目処に開催することとし、閉会。